

## モンズズメバチ

「ハチの巣がある、用心しろ」との酒井さんの声がありました。「アシナガバチか？ たった1週間で……」というのです。当協会随一のハチ駆除名人の「湯澤さんと呼ばれた」とのこと。そこは完成間近の物置小屋の中で、前回は外壁の化粧板貼りの手伝いをしていて、一匹のスズメバチが、3~4人も人間が入りし、壁に板を釘付けするのにガンガンと鎚音を響かせていたにも拘わらず、軒下や内部を綿密に点検しているのに気づいては



いました。はっきりと巣づくりの場所を探している様子が窺えましたので、驚きではありません。除去する前に撮影した巣の画像をよくよくご覧ください。酒井さんがアシナガバチと思ったのも無理のないことで、巣が露出し育房が見えているのが確認できます。そっと近づいたのに10匹ほどのハチ達が巣の裏がわからざろりと出てきて警戒態勢に入りました。取り敢えずカメラを構えて撮影しました。駆除した後の死骸を確認しておきました。2013年8月28日澄川森林での出来事でした。



帰宅して調べた結果、モンズズメバチと同定します。この大きさになるまで巣の下部を露出しているのが第一の決め手です。他のスズメバチですといずれも外壁で包みこんでしまいハニカム構造は見えません。モンズズメバチは攻撃的なので巣を守る自信があるからでしょう。死骸の映像は崩れていて撮影していませんが、しっかりと目に焼き付けてきました。左の画像で左から女王(28~30<sup>ミリ</sup>)、働き蜂(21~28<sup>ミリ</sup>)、♂蜂で

す。この時期に数匹の群れでの巣作りなのは、引越してきた群れなのです。引越するのもモンズズメの生態のようです。セミが大好きで主食のようですから、今年の澄川森林ではコエゾゼミの大発生でウハウハしていた筈です。間違えたのは巣づくりの場所で、われわれを甘く見たのが運の尽きだったのです。

分布は日本全土、ヨーロッパまでとありますから、凄く広いようです。

図鑑「札幌の昆虫」に記載されている紛らわしい仲間たちはオオスズメバチ、コガタスズメバチ、キイロスズメバチ、チャイロスズメバチがありますが、オオスズメバチは明らかにでかいのですぐわかります。チャイロはお尻の縞々がはっきりせずに全体がこげ茶色が強いので区別できます。コガタとキイロとの区別が一見では困難なので、掴まえて調べるに越したことはありませんが、素人は触らないことです。ひとくくりでスズメバチとして敬遠されることをお勧めいたします。